

#### 4. 3 国際化時代における図書館協力

##### グローバルなリソースシェアという観点からみた大学図書館協力

東京学芸大学学術情報部長

早瀬 均

はじめに

研究活動のグローバル化が進むなかで、大学図書館の国際化が強く求められている。ここでいう国際化とは、海外の大学図書館等とも協力して、わが国の学生・研究者の文献需要の拡大に対応するとともに、海外からの日本情報・研究資料の需要にも応えるということである。とくに日本研究資料・情報の入手とアクセスの改善については、1980年代末から需要が拡大し、日米文化教育交流会議で取り上げられるほどになった。それからおよそ10年が経過したが、それは、日本情報・研究資料の充足が「一方向から双方向へ、そしてグローバルへという軸足の変化」\*1を遂げた過程でもあった。

#### 1 日本の国際 ILL/DD の推移

1) 「大学図書館実態調査報告」から見る。

2) 国際 ILL/DD の諸相

①BLDSC等ドキュメント・デリバリー・サービスの利用

②国際協力事業としての実施

○SEAMIC (東南アジア等医療情報協力事業)

○寄贈資料搬送事業

③海外書誌ユーティリティへの参加

④グローバル ILL フレームワーク

#### 2 グローバル ILL/DD の経緯

1) 日米文化教育交流会議 (CULCON\*2) における協議

①背景

「日本の研究者が米国の文献情報を利用できるように、米国の研究者も日本の文献情報を利用したい。」\*3

②情報アクセスワーキング・グループ (1995-1999)

○ワーキンググループの設置 (第17回 CULCON 1995.1)

○7つの行動指針 (第18回 CULCON 1997.5)

・「原報についての海外からの需要に対して、日米両国の図書館、情報サービス機関のドキュメント・デリバリー・サービス (原報提供サービス) を改善すること。」 (第18回日米文化教育交流会議 (カルコン) 共同声明 (仮訳))

・日本側 (国公立大学図書館協力委員会及び国立大学図書館協議会)、米国側 (ARL/AAU)

双方に対応組織を設けた。<sup>\*4</sup>

## 2) 日米間のドキュメント・デリバリー・サービスの改善への取り組み

- ①日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するラウンド・テーブル (1999. 2)
- ②日米ドキュメント・デリバリー・サービス試行実験 (1999. 12-2000. 11)
- ③2000 年北米日本研究資料調整協議会総会出席 (2000. 3)
- ③日米両国における学術情報アクセス改善のための情報担当者会議 (2001. 1)
  - 試行実験の総括
  - グローバル ILL/DD の提唱
- ④NII-OCLC ILL 試行運用 (2002. 1)
- ⑤文献複写サービスの開始 (2002. 4)
- ⑥現物貸借サービスのための日米会議 (2003. 1)
- ⑦現物貸借サービス実地テスト (2003. 5)
- ⑧日米ドキュメント・デリバリー・サービス評価会議 (2003. 7)
- ⑨現物貸借サービスの開始 (2003. 8)

## 4 グローバル ILL フレームワーク (Global ILL Framework: GIF) <sup>\*5</sup>

### 1) GIF とは

「ネットワーク環境において資源共有の理念を地球規模で実現しようという枠組み」、「グローバルな ILL/DD を実現しようとする仕組み」<sup>\*6</sup>

### 2) IFLA 「国際貸出とドキュメント・デリバリー：処理の原則とガイドライン」(2001 改訂) <sup>\*7</sup>

### 3) 国際 ILL/DD の論点

- ①資料所蔵の確認
- ②依頼送付・受付方法
- ③コピー、資料の送付方法
- ④料金決済
- ⑤著作権問題

### 3) GIF の構成

- ①ISO ILL プロトコルに基づく書誌ユーティリティ間の ILL システムリンク
- ②NACSIS-ILL という単一のインターフェース
- ③料金決済システムの確立

### 4) GIF における著作権問題

- ・各国の著作権法に準じた取り扱い
- ・わが国では平成 16 年 3 月に国公立大学図書館協力委員会と日本著作出版権管理システムと学術著作権協会との間で画期的な契約が成立

## 5 GIF 関連の技術

### 1) ISO ILL プロトコル (ISO10160/JIS X0808-2001, ISO 10161/JIS X0809-2001)

○ILL メッセージ交換

### 2) 情報検索プロトコル (Z39.50/ISO 23950/JIS X0806-1999)

○書誌所蔵検索

### 3) ディレクトリサービス

○レンディングポリシーの参照 (X.500/LDAP)

### 4) 電子的文献交換 (GEDI ISO 17933/JIS X0811-2002)

○文献画像の送信

## 6 日米 ILL/DD プロジェクト

NII-OCLC ILL システム間リンクに基づく国際 ILL/DD

### 1) 米国側対応・参加組織

#### ①対応組織

・ARL (Association of Research Libraries: 研究図書館協会)

・NCC (North American Coordinating Council on Japanese Library Resources: 北米日本  
研究資料調整協議会)

#### ②参加機関

・当初は ARL Japan Journal Access Project (現在は、Japan Project) メンバーが中心

### 2) 文献複写サービス (2002.4)

### 3) 現物貸借サービス (2003.8)

### 4) 依頼受付状況

### 5) 課題

#### ①システム面

#### ②運用面

## 7 日韓 ILL/DD プロジェクト

NII-KERIS\*6 ILL システム間リンクに基づく国際 ILL/DD

### 1) 経緯

①NII-KERIS ILL システムリンク計画の合意 (2002.12)

②NII-KERIS ILL システムリンクに関する意見交換・状況報告 (2003.3-7)

③NII、国大図協と接続について協議 (2003.9)

④NII、KERIS、国大図協の3者で接続についての協議 (2003.10-11)

### 2) 日韓 ILL/DD プロジェクトに関する担当者会議 (2003.12)

### 3) 日韓 ILL/DD に関する合意事項

### 4) 日韓 ILL/DD 実施スケジュール

#### ①暫定サービス

## ②本格運用

### 【注】

1. 井上 如 「まえがき」『日本情報の国際共有に関する研究 平成10年度報告』 学術情報センター, 1999
2. The U.S.-Japan Conference on Cultural and Educational Interchange
3. Gregor, Dorothy 「書誌ユーティリティと研究図書館の最近のプロジェクト」『海外における日本情報の需要と供給に関する研究 平成7年度報告』 学術情報センター, 1996, p. 56
4. 国立大学図書館協議会に「国際情報アクセス特別委員会」(1998.3)が設置され、一方、北米側は、ARL/AAU Global Resources ProgramのJapan Journal Access Projectが対応。
5. GIFのホームページ <http://www.libra.titech.ac.jp/GIF>
6. 『GIF (Global ILL Framework) ガイド [OCLC版] Ver.2.0』 学術文献普及会 2003, p.1
7. International lending and document delivery: principles and guidelines of procedures.
8. Korea Education and Research Information Service (韓国教育学術情報院)

### 【参考文献】

1. 柄谷泰文「グローバル ILL/DD フレームワーク：その理念と背景」『大学図書館研究』67号, 2003.3, pp.1-10
2. Jackson, Mary E. “Expanding Global Resource Sharing: the North American perspective on the Global ILL Framework (GIF) Initiative” 『大学図書館研究』67号, 2003.3, pp.11-18
3. 鶴澤和往「グローバル ILL と NACSIS-ILL の ISO ILL プロトコル対応の概要」『大学図書館研究』67号, 2003.3, pp.19-27
4. 早瀬均ほか「大学図書館の国際連携 — GIFの取り組みについて —」『大学図書館研究』70号, 2004.3, pp.55-62